

独立行政法人日本学術振興会理事長

研究報告書

受入研究者 (独) 国立成育医療研究センター
所属・職 室長氏名 梨井 康

期間中、招へい研究者は、今まで独創的な発想と豊かな経験を生かして精力的に移植免疫学の基礎研究で得られた優れた成果を沢山紹介された。また、マウス肝臓から浸潤細胞・HSCの精製分離、解析の指導を受け、マウス骨髄から樹状細胞への分化誘導方法も細かく指導を受けた。また、現在進行中のiPSから免疫細胞への分化誘導の研究について協議し、指導を受けた。4月17日に、「Cellular and Molecular Mechanisms in Liver Transplant Tolerance」を題とする講演をし、招へい研究者の研究成果について紹介できた。

本事業の一環として、本受入研究者の共同研究者のご協力を得て、期間中、平成26年4月10日～13日、京都大学医学部を訪問し、12th International Society for Experimental Microsurgery Congressに参加され、Keynote Speechとして、「Liver Transplant Tolerance - the History and Future」の題目で講演を行った。また、京都大学医学部上本伸二教授ら学会参加者と研究討議、意見交換を行い、同教室の大学院生の卒業後のアメリカへの留学のテーマ、可能性等について協議した。

今回の交流により、相互の研究成果、特にiPSから免疫細胞への分化誘導の研究、マウス肝移植の自然生着（寛容）状態機序解明について、それぞれの実験系で同じような結果が得られたことが分かり、両研究グループ間の交流関係を深め、積極的に共同研究を進めることに合意した。特に移植医療の分野において移植後の免疫寛容の導入及び維持の機序とその新しい診断法の開発の研究成果を臨床応用へ向けた技術基盤確立に大きく寄与すると確認した。今後、電子メールを通じて研究情報の交換を行い、同研究所への学生、ポストドクターの派遣等で、共同研究を進めようと計画している。また、本受入研究者は今後も同研究所を訪問する予定となっている。本研究事業を起点として、より確実な学術交流とともに当該研究の国際的な発展を期待したい。